

期間	ふりがな	ならけんきょういくいいんかい	都道府県番号
令和3年度 ～ 令和5年度	管理機関	奈良県教育委員会	29
	ふりがな	ならけんりつこくさいこうとうがっこう	奈良県
	事業拠点校	奈良県立国際高等学校	

令和3年度WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業 構想計画書（概要）

構想名（30字程度以内）

最古の国際都市奈良から発信～持続可能な社会に向けて～

構想概要（400字以内）*テーマ設定したグローバルな社会課題について必ず記載すること

SDGs等の地球規模の課題解決に向けて探究的な活動を行う先進的なカリキュラムの研究・開発を、拠点校である県立国際高等学校で行う。また、奈良県教育委員会が中心となり、県立国際高等学校が、県内の国公立高等学校、海外の高等学校や国内外の大学・企業・国際機関等と協働し、イノベティブなグローバル人材を育成するためのAL(アドバンスラーニング)ネットワークを構築する。事業連携機関、国内外の事業連携校、留学生等の多様な背景や考え方、価値観を持つ人々との協働を通して、既存の仕組みを客観的に見つめ直し、新たな価値を提唱していく。奈良の地から東アジア、そして世界へと視野を広げた人材を育成する。

研究開発・実施体制

		機関名・学校名・情報						代表者・校長名	
管理機関		奈良県教育委員会						吉田 育弘	
事業拠点校		奈良県立国際高等学校 (公立)						中尾 雪路	
		学科・コース名	1年	2年	3年	計	学校規模		
	対象:	国際科	190	170		360	360		
	対象外:					0	0		
事業共同実施校	①	()						0	
		学科・コース名	1年	2年	3年	計	学校規模		
	対象:					0	0		
	対象外:					0	0		
事業協働機関 (国内外の大学、企業、国際機関等)	①	国連世界観光機関(UNWTO)駐日事務所							
	②	公立大学法人国際教養大学							
	③	株式会社アイエスエイ							
	④	学校法人河合塾							
事業連携校 (国内外の高等学校等)	①	奈良県立奈良高等学校				(公立)		中野 善久	
	②	奈良県立畝傍高等学校				(公立)		大西 英人	
	③	奈良県立青翔高等学校				(公立)		駒沢 肇	
	④	奈良県立法隆寺国際高等学校				(公立)		穴田 敏之	
	⑤	奈良県立高取国際高等学校				(公立)		永井 工仁	
	⑥	国立大学法人奈良女子大学附属中等教育学校				(国立)		内田 忠賢	
	⑦	奈良学園登美ヶ丘高等学校				(私立)		安井 孝至	
	⑧	Aquinas College (Australia)				(私立)		Peter Hurley	
	⑨	Gymnasium Ernestinum Rinteln (Germany)				(私立)		Reinhold Lüthen	

(別紙様式1)

令和3年4月14日

事業実施計画書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 奈良県奈良市登大路町30番地
管理機関名 奈良県教育委員会
代表者名 教育次長 前田 景子

1 事業の実施期間

(契約締結日)～ 令和4年3月31日

2 事業拠点校名

学校名 奈良県立国際高等学校
学校長名 中尾 雪路

3 構想名

最古の国際都市奈良から発信 ～持続可能な社会に向けて～

4 構想の概要

拠点校である県立国際高等学校でSDGs等の地球規模の課題解決に向けて探究的な活動を行う先進的なカリキュラムの研究・開発を行う。また、奈良県教育委員会が中心となり、拠点校、県内の国公立高等学校、海外の高等学校や国内外の大学・企業・国際機関等が協働して、奈良の地から東アジア、そして世界へと視野を広げたイノベティブなグローバル人材を育成するためのAL(アドバンスラーニング)ネットワークを構築する。

様々な事業連携機関や留学生等の多様な背景や考え方、価値観を持つ人々との協働を通して、既存の仕組みを客観的に見つめ直し、最古の国際都市である奈良から持続可能な社会に向けて、新たな価値を提唱していく。

5 令和3年度の構想計画

(1) ALネットワークの形成

① 運営委員会の開催

ネットワーク運営委員会を組織し、年2回の会議をオンラインで開催。

- ・第1回 ALネットワークの運営方針と今年度の予定を決定(6月)
- ・第2回 年度の研究総括(1月)

② 事務局会議の開催

奈良県教育委員会事務局教育政策推進課内に事務局を設置し、拠点校や関係機関との情報共有のための会議を月1回オンラインまたは対面で開催。

③ 海外大学・国内トップ大学進学、海外留学を促進する取組の実施

- ・海外留学説明会の開催(4月～5月)
- ・海外大学・国内トップ大学進学セミナーの開催(5月頃)
- ・グローバルフェアの開催(7月)

- ・国際教養大学教授を招聘し、出前講座を開催（秋頃） ※県費負担
- ・韓国延世大学とのオンライン交流（1月頃）
- ・中国清華大学でのワークショップ開催（3月） ※引率旅費県費負担
- ・海外交流アドバイザーを配置し、海外の連携校拡大を推進（通年）
- ・連携協定締結事務のため、渡航（11月、1月の2回）
- ④ カリキュラム・アドバイザーの配置
 - 契約日以降に配置したカリキュラム・アドバイザーが週2日程度事務局で勤務し、以下の業務にあたる。
 - ・カリキュラム研究開発計画に関する指導（5月）
 - ・カリキュラム内容についての指導・助言（通年）
 - ・教員向けワークショップの運営指導（8月）
 - ・連携校との探究プラットフォームフォーラム企画案の指導（10月）
 - ・探究プラットフォームフォーラムでの指導助言（1月）
 - ・1年間の研究総括と次年度の研究開発計画の指導助言（3月）
- ⑤ 高校生国際会議の開催準備
 - 国際会議は、令和4年8月にオンライン及び対面のハイブリッド型で実施を予定。今年度は、共催となる国連世界観光機関駐日事務所との協議を進める。
- ⑥ 県内大学等が開催するサマースクール等への参加
 - ・連携校の生徒が海外の大学生等とともに学ぶ機会を創出できるよう関係機関と調整
- ⑦ 探究プラットフォームフォーラムの開催
 - ・連携校で「探究プラットフォーム」を構築（6月）
 - ・ALネットワーク Web ページを運営（6月～）
 - ・教員向けワークショップを開催（8月）
 - ・各校の探究活動の成果を発表・共有し、課題点等を協議するフォーラムを開催（1月）
- ⑧ 大学教育の先取り履修の実施に向けた計画
 - ・アドバンストプレイスメントシステムの構築の前段階として、県内大学主催の講座に高校生が参加できる仕組みを大学側と検討・調整（6月～）

(2) 研究開発・実践

- ① 拠点校に WWL 推進委員会を設置（5月）
 - 委員長：校長
 - 委員：教頭 教務部長 国際教育部長 進路部長 文化図書部長 学年主任
- ② 学校設定科目「グローバル探究」の開発・実践
 - 身近にある問題から探究のプロセスを繰り返す中で、自分自身の課題を設定し、フィールドワークやシンガポールでのスタディツアーなどで探究を深めながら、最終学年では、高校生国際会議の開催、日本語と英語での論文作成を目指す。
 - ア「グローバル探究Ⅰ」（1年次3単位 必修）
 - ※教育課程の特例を活用して「社会と情報」（2単位）を代替
 - 情報化が社会に及ぼす影響や課題について理解するとともに、コンピュータや情報通信ネットワークについての理解を深め、適切に活用しながら、探究活動を行う。
 - ・ボルネオ島・旭山動物園をつないだオンライン授業（6月）
 - ・滋賀大学「高校生のためのデータサイエンス入門」をeラーニングによる学習（9月）
 - ・少人数ゼミによる探究活動・フィールドワーク（2学期以降）
 - ・各分野の専門家によるワークショップの開催（2学期以降）
 - ・校内発表会（1月）
 - イ「グローバル探究Ⅱ」（2年次3単位 必修）

※「異文化理解」の内容を取り扱い、同様の成果が期待できることにより、「異文化理解」（2単位）を代替

外国の事情や異文化について理解を深めるとともに、英語を通じて、異なる文化をもつ人々と意見交換等を行い、探究活動を進める。

- ・少人数ゼミによる探究活動・フィールドワーク（通年）
- ・シンガポールスタディツアー（10月）※令和3年度は国内で実施
- ・外国人講師（6名）の英語によるワークショップ 全12回（9月～）
- ・海外の高校生・大学生との英語による課題研究オンライン交流（11月以降）

ウ 教員向けワークショップの実施

③ 学校設定科目「世界の言語」の開発・実践

複数の言語を学ぶことで、言語間の共通点や相違点に気付き、言語そのものへの理解が深まるだけでなく、世界の多様性への意識を育むことができる。このため、5言語すべてを学ぶカリキュラムを奈良教育大学吉村雅仁教授の指導で開発・実践する。研究成果については JACTFL（日本外国語教育推進機構）や EDILIC（Éducation et Diversité Linguistique et Culturelle）で本年度中に共同発表を予定している。

ア 世界の言語Ⅰ（1年次2単位 必修）

各言語の特性を理解するために、中国語、韓国語、スペイン語、フランス語、ドイツ語の5言語すべてについて、聞き、話す言語活動を中心に行う。

イ 世界の言語Ⅱ（2年次2単位 必修）

1年で履修した言語の中から1つの言語を選択し、聞く、話す、読む、書く言語活動を行う。

④ 課題研究を効果的に進めるための取組

ア カリキュラム・マップの作成

- ・全教職員による「グローバル探究」を中心に据えた教科横断的な学びの推進

イ 英語によるコミュニケーション力向上のための取組

- ・総合英語Ⅰでのネイティブ教員によるプレゼンテーション指導（通年）
- ・ガー・レイノルズ名誉校長による「サマーセミナー」の実施（8月）
- ・専門科目「ディベート・ディスカッション」における指導（2年次2単位）
- ・国際教養大学イングリッシュビレッジオンラインの開催（年4回）

ウ 外国人講師、ネイティブ教員の配置

- ・6人の外国人講師を配置し、「グローバル探究Ⅱ」の6つの研究分野で英語による課題研究ワークショップを全15回コーディネートする。（9月～2月）
- ・5カ国語のネイティブ教員を配置し、「世界の言語Ⅰ」で月1回、「世界の言語Ⅱ」で日本人講師とともにティームティーチングを行う。（県費負担）

エ 国内大学での探究活動ワークショップ開催（30名 旅費補助一人50000円）

(3) 事業の成果検証・評価

① カリキュラムの成果検証

事業拠点校で、1年次、2年次、3年次の4月に、学校法人河合塾のアセスメントテスト「学びみらいPASS」を実施し、リテラシー・コンピテンシーを客観的に把握することで、研究の成果や課題を確認するとともに、生徒自らが客観的に伸びを認識する機会とする。アセスメントテスト受験後は、河合塾主催で教員及び生徒向けの講習会も実施し、カリキュラムの成果について分析を行う。

② 運営指導委員会による評価

年間2回のWWLコンソーシアム構築支援事業運営指導委員会を開催し、専門的な見地から指導・助言、評価を受ける。

(4) 成果の公表・普及

- ① 奈良県教育委員会事務局教育政策推進課の Web ページにおいて事業の取組を広く公開する。
- ② 事業拠点校の Web ページ（日本語・英語）において、拠点校における取組を広く公開する。
- ③ 探究プラットフォームフォーラムを外部へ公開する。
- ④ 事業拠点校で、研究授業・研究協議を実施する。

<添付資料> ・令和3年度教育課程表

6 事業実施体制

課題項目	実施場所	事業担当責任者
(1)AL ネットワークの形成 ①運営委員会の設置 ②事務局会議の開催 ③海外大学進学等の促進 ④カリキュラム・アドバイザーの配置 ⑤高校生国際会議の開催に向けた計画 ⑥県内大学サマースクール等への参加 ⑦フォーラムの開催 ⑧大学教育の先取り履修に向けた計画	教育政策推進課 等	森田純司（管理機関）
(2)研究開発・実践 ①WWL 推進委員会の設置 ②「グローバル探究」の開発・実践 ③「世界の言語」の開発・実践 ④事業を効果的に進めるための取組	県立国際高校 等	中尾雪路（拠点校）
(3) 事業の成果検証・評価 ①カリキュラムの成果検証 ②運営指導委員会による評価	県立国際高校 教育政策推進課	①中尾雪路（拠点校） ②森田純司（管理機関）
(4) 成果の公表・普及 ①県教育委員会 Web ページ ②拠点校 Web ページ ③フォーラムの成果を公開 ④拠点校の公開授業	県立国際高校 教育政策推進課	①森田純司（管理機関） ②中尾雪路（拠点校） ③森田純司（管理機関） ④中尾雪路（拠点校）
(5) 報告書の作成	教育政策推進課	森田純司（管理機関）

7 課題項目別実施期間

業務項目	実施期間（ 契約日 ～ 令和4年3月31日）												
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
(1) AL ネットワークの形成													→
(2) 研究開発・実践	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
(3) 事業の成果検証・評価				○			○			○			
(4) 成果の公表・普及	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
(5) 報告書の作成													○

8 再委託先の有無 無

9 所要経費
別添のとおり

【担当者】

担当課	奈良県教育委員会事務局 学校教育課	TEL	0742-27-9853
氏名	川崎 崇	FAX	0742-23-4312
職名	指導主事	E-mail	kawasaki-takashi@office.pref.nara.lg.jp